



社会科における「見方・考え方」を改めて考える —社会科教育の「不易」—

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫

これまでの成果

2013年から11年にわたって32号の「トラの巻」を執筆させていただきました。これまで長くご愛読いただき、さまざまなご意見、ご感想をお寄せいただき誠にありがとうございました。

執筆当初は大学での社会科教育と東京都教職員研修センターの東京教師道場に関わっており、そのときの学生や若い先生方の地理的分野の指導に対する不安を感じ取り、地理の授業を楽しくかつ意義のあるものとして受け止め、生徒と共に創る地理の授業を展開してほしいという若い先生方への応援メッセージとしてこの「トラの巻」を始めました。執筆して数年経って、若い先生方から、トラの巻で示した掛地図を活用しての効果、雨温図の作成や読み取りによる成果について、また地域や生徒の実態に合わせた州や地方の学習順序への挑戦などについて実践報告を受けるようになり、執筆者としてうれしかぎりでした。

見方・考え方の重要性

私が「トラの巻」を執筆してきた11年間には、平成20年版学習指導要領から平成29年版学習指導要領への変遷がありましたが、現行学習指導要領においては、全教科において「見方・考え方」を働かせた学習活動が行われています。中学校社会科において「見方・考え方」が分野別目標に登場したのは、地理的分野では昭和44年版で最も古く、公民的分野では平成20年

版、歴史的分野では平成29年版でした。今回の改訂で小中高を通しての登場となり、そうした意味ではその歴史は浅く、「見方・考え方」の定義も統一した考え方が先生方にあまねく浸透しているとはいいきれません。

社会科教育史を振り返って、これまで森分孝治先生、岩田一彦先生、小原友行先生らが社会科における「見方・考え方」について論じてこられました。私が特に共感したのは、平成29年版学習指導要領の作成に関わった原田智仁先生の下記のお考えです。

○見方……事実（現象）を把握する＝事実把握
○考え方…概念理解＝理論化と価値観形成＝意思決定

これを学習活動の流れとしてとらえると、次のようにいえるでしょう。

【見る】 諸資料から情報を読み取り、記述する
【考える】 情報の読み取りから問いを設定し、仮説を設定したり検証したりして結果を説明する。→さらに価値判断や意思決定に関わって議論する。

これらの【問いの設定→探究→説明・発表→議論→自分の考えの再構築・新たな問い】に至る活動については、トラの巻でたびたび述べてきました。

地理的分野の学習における「地理的な見方・考え方」については、「トラの巻①」で解説しておりますので、ぜひ参照してください。改めて振り返ると学習の最初の段階での“見る＝事実把握”が重要であり、何を見せるか、何を読み取らせるかがその後の学習に大きく影響します。その意味で資料の読み取りは非常に重要で

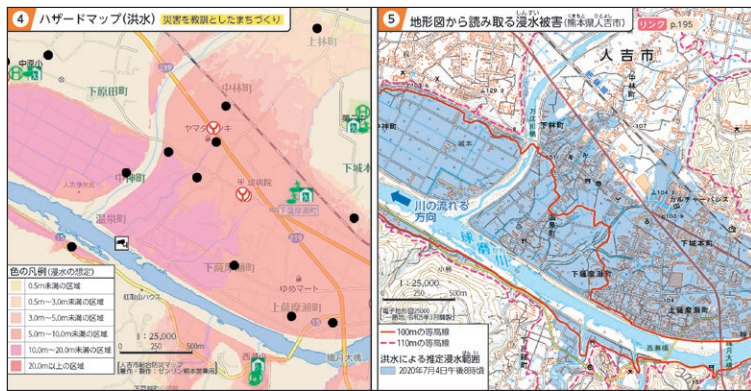


図 『中学校社会科地図』 p.162 「④ハザードマップ（洪水）」と「⑤地形図から読み取る浸水被害（熊本県人吉市）」

あり、「見方・考え方」を働かせる地図や資料が豊富に用意されている地図帳は有用です。例えば、令和7年度版の『中学校社会科地図』（以下、地図帳）には、東京や大阪、京都などの都市の5万分の1など同縮尺の地図が用意されています。近隣の席の生徒と東京・大阪・京都の地図を並べて、商業地域や住宅地域の広がり进行比较することでそれぞれの都市の特色が浮き彫りになります。「地理的な見方」の基本は位置と広がり（分布）です。同縮尺の地図で同じ距離、同じ面積で比較することが科学的分析の基本であることに気付かせたいものです。また、州や地方の主題図でも同縮尺の地図が多く用意されています。州や地方の学習において同縮尺の主題図を比較することで、分布の特徴や事象間の因果関係を考察させる学習が可能です。

さらに地図帳p.162の熊本県人吉市の地形図とハザードマップ（図）の比較・照合により、わずか数mの高低差が浸水被害に影響することが実感できます。単なる色の違いを読み取らせるのではなく、具体的データで違いを実感させることが大切です。今後の社会科教育においては、ますます「見方・考え方」を吟味した実践が必要と考えます。

仲間と創る楽しい社会科の授業

私のこれまでの社会科教師としての人生の中で、社会科教育に熱い思いを持ち、実践する同世代の多くの仲間の先生がいました。その仲間たちと30代後半から実践を披露し、工夫について討論する学習会を行ってきました。現在、

左図 人吉市総合防災マップ 著作・製作：ゼンリン熊本営業所

都内で継続的に開催されているいくつかの学習会では、工夫した授業やおもしろい授業の実践を報告したり、評価に関する悩み解消のために定期考査やワークシートの工夫を披露したり、意見を交わしたりするなど切磋琢磨することで、よりよい社会科授業の実践を目指しています（写真）。昨年の11月には全国中学校社会科教育研究大会北海道大会、関東ブロック中学校社会科教育研究大会茨城大会があり、そのどちらにおいても若い先生方が研究発表・実践発表をしておられ、とても頼もしく感じました。地域の課題を教材化し、行政や地域の方々を学習に巻き込み、共に課題解決を目指そうとするまさに「Think Global！ Act Local！」を思わせる地に足が着いた優れた実践でした。



写真 東京の多摩学習会にて。若い先生方が意欲的に研究・発表されている

若い先生方には自分だけの「トラの巻」を残して、大切にしてほしいと思います。まずは先生自身が社会科を好きになり、社会科の授業を楽しんでください。きっと生徒はその姿を見てついてきます。今後も先生方のご活躍と社会科教育の発展を祈念し、「トラの巻」を閉じます。

赤トラからの
メッセージ



- 社会科を好きになること
- 先生自身が楽しい、おもしろいと思う授業を工夫すること
- 3年間の社会科で、「覚える」から「考える」へ、「考える」から「自分の意見を言える」生徒を育てること

編集部より

これまで「トラの巻」をお読みいただき、ありがとうございました。「トラの巻」のバックナンバーはこちらからご覧いただけます（要会員登録）。

